

先生たちも（校内研修）頑張っています。

8月23日（金）

本日8月23日は二十四節気の一つ「処暑」となります。「処暑」とは暑さが終わるという意味です。まだ昼間は暑い日が続きますが、朝夕は涼しい風が吹き渡ったり、気持ちのよい時期とされていますが、近年は残暑も長く、9月14日体育大会の頃まで暑い日が続きそうです。朝夕は少し秋らしくなってきているものの、日中はまだまだ暑い日が続きますので、引き続き熱中症にはもうしばらく注意が必要です。「熱中症＝夏場」と考えがちですが、最近では30℃に満たない気温でも熱中症で倒れる若者が増加しているようです。幼少期にしっかりと汗をかかなかった人は、「クールビズ」などで推奨される室温28度程度でも熱中症を引き起こす危険性があり、かつ重症化しやすいということです。そんな「熱中症体質」が10～20代の若者を中心に増えていると専門家が注意とセルフチェックを呼びかけています。汗は人間の体温調節には欠かせない機能で、全身の表面にある「エクリン汗腺」と呼ばれる汗腺から分泌します。汗腺は胎児期に発生するが、すべてが汗を分泌するのではなく、汗かく能力（備えた汗腺）を「運動汗腺」、汗を分泌しない汗腺を「休眠汗腺」と呼びます。

また丹波市立青垣小中合同職員研修会を8月19日（月）に開催しました。講師は一般財団法人児童虐待防止機構オレンジCAPO理事長島田妙子に來校していただきました。～こどもの笑顔を守るために私たちにできること～題してご講演いただきました。対象は青垣小・青垣中教職員と氷上西高等学校職員の約50名が参加しました。～島田妙子さんのプロフィール～

1972年神戸市北区生まれ。4歳の頃、両親の離婚で兄二人と児童養護施設に入所。7歳の時、父の再婚で家庭に復帰したが、継母と実父による壮絶な虐待が始まり、何度も命を落としかけた。現在は、関西約150園の学校・幼稚園・保育園の『思い出のアルバム』DVD・Blu-rayソフト制作会社を経営。2010年末、心の支えであった次兄が白血病で他界した。これを転機に兄の思いを引き継ぎ、本当の意味での「児童虐待の予防」にむけての自叙伝を執筆するとともに、「大人の心を助ける」講演活動を積極的に行っている。「虐待」だけでなく、「命」「愛」「子育て」「障がい」「介護」の幅広い内容により、中学生から大学生、保護者、行政職員、教員を対象に講演活動中。またその活動は、新聞やメディアに多数取り上げられ、実体験を基にした話には体験したからこそ伝えることができると定評を得ている。2019年11月NHK『クローズアップ現代』出演

今回の講演依頼によるご本人からのメッセージ

「先生方が、早く2学期になって子どもたちに会いたい！と思って

もらえるような時間にしたいと思っています。」



≪先生方の感想文一部抜粋≫

「子どもを救うことは大人も救うこと」とても印象に残りました。生まれたことに感謝！子どもたちにとっての人生分岐点はそこら中にあるのかと思います。自分に何ができるのか？と考えると、明確な答えは出ませんが、子どもの変容や言葉を見落とさず、「自分を大切にすること」を柱に、子どもたちと向き合っていきたいと思います。

人（子ども）は出会える人によって人生が変わる。私も人の人生が少しでも良い方向に変えることのできる「出会えて良かった人」の一人になりたい。

いつも「今この子は何を思ってこんな行動をしたのかな」と考え、それを少しでもやわらげてやりたいと思って声をかける。

心のゆとりは必要。安定していないと思いやれませんか。自分も大切にしたいと思いました。多くの決断、一つ一つ苦労しながら行っているんだ、そんな子がいることを再認識しました。

島田さんのお話を聞いて、すごく心が動きました。胸が熱くなる瞬間がたくさんありました。まずは虐待という文字についてです。「いじめを待つ」と書くといわれ、はっとさせられました。次に「子どもを救うこと＝親を救うこと」ということです。そして、子どもたちに自分の気持ち（本音）に気づき、発すること、今まで私が気付けていない視点ばかりでした。我慢することが良いのではなく、自分の感情を表現する、特に怒りの感情を正しく表現できるように学んでいくことが大切だと知りました。小さな決断をたくさん繰り返して生活しているからこそ、自分の気持ちに自分が寄り添い、自分の機嫌は自分でとれるようにコントロールしていきたいと思いました。島田さんが子どもの頃出会われた先生方のように、子どもたちの様子や変化に気付けるアンテナの高い教師、そして行動を起こせる教師になりたいと思います。

先生のこれまで歩いてこられた人生のお話の中で、そうすればいいのか…ということがよく分かりました。たくさんのお言葉がありましたが、「誰に出会うかで大きく変わる人生」「自分の思いを言葉にしていこう」という言葉が心に残っています。先生はマッハ先生に出会われたことが人生を変え、生き方、物の考え方を変えていくきっかけになったのではないかと思います。私は普段から相手にかける言葉がけ、言葉遣いや相手を使う言葉が気になり、自分なりに気を付けたり反省したりする毎日です。が、先生も言われたように、言葉でつながる人間関係の中で信頼性や信用性、安心感が生まれてくると思います。子どもとの関わりの中で言葉を介して自分の思いが言えるようなつながりを作っていきたいと思います。子どもたちが本音で自分の思いを話してくれる関係がつかれたらと思います。